



TOPPAN STORY

トッパン・ストーリー

Vol.
99

第177期 中間株主通信 (2022年4月1日から2022年9月30日まで)

株主総会資料に関して重要なお知らせがございます。
詳細は11ページをご参照ください。

CONTENTS

連結財務ハイライト	2
株主の皆さまへ	3
特集	4
TOPPAN 6months	6
セグメント別概況	8
株式情報・株主メモ	10
お知らせ・Information	11

連結財務ハイライト

1 株当たり株主配当金 〔中間〕

22円
(年間44円予定)

中間配当金につきましては、
1株当たり22円とし、年間
では44円の配当を予定して
います。

詳細は、IR情報ウェブサイトを
ご覧ください。

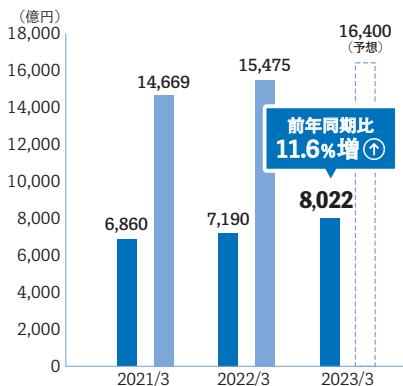


<https://www.toppan.co.jp/ir/>

■ 第2四半期累計 ■ 通期

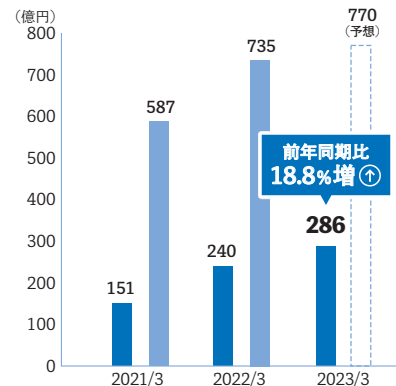
■ 売上高

8,022
億円



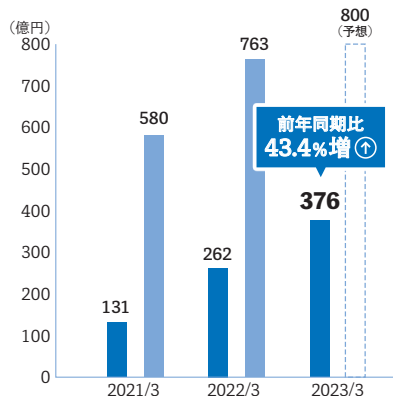
■ 営業利益

286
億円



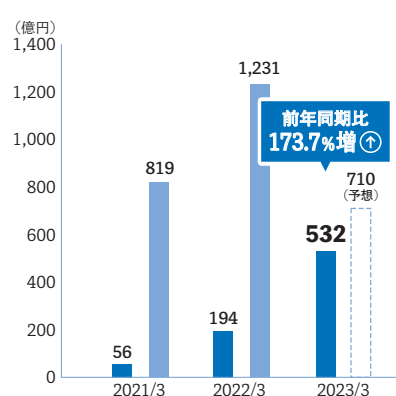
■ 経常利益

376
億円



■ 親会社株主に帰属する 当期純利益

532
億円



※ 2022年5月11日に公表しました2023年3月期通期連結業績予想を修正しました。

株主の皆さまへ

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

第177期第2四半期連結累計期間(2022年4月1日から2022年9月30日まで)のトッパングループの業績概況につきまして、ご報告申し上げます。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和されるなど、持ち直しの動きがみられた一方、ウクライナ侵攻の長期化に伴うサプライチェーンの混乱や資源価格の高騰、急速な円安の進行など、依然として先行き不透明な状況が続きました。

当社グループを取り巻く環境におきましては、原材料の価格高騰や供給面での制約、情報媒体のデジタルシフトによるペーパーメディアの需要減少など厳しい経営環境が続きましたが、一方で生活様式の変化に伴うデジタル需要の増加や地球環境に対する意識の高まりなど、新たな需要が見込まれております。

このような環境の中で当社グループは、「Digital & Sustainable Transformation」をキーコンセプトに、社会やお客さま、トッパングループのビジネスを、デジタルを起点として変革させる「DX(Digital Transformation)」と、事業を通じた社会的課題の解決とともに持続可能性を重視した経営をめざす「SX(Sustainable Transformation)」を柱に、ワールドワイドで社会課題の解決をめざし取り組みを進めてまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は

前年同期比11.6%増の8,022億円、営業利益は18.8%増の286億円となりました。また、経常利益は43.4%増の376億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は173.7%増の532億円となりました。なお、中間配当金は1株当たり22円とし、年間配当金は44円を予定しております。

当社グループでは成長戦略の遂行に加え、気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)に基づく情報開示の継続強化や、「TOPPAN Business Action for SDGs」に基づくSDGs対応の強化などを推進してまいります。

今期は中期経営計画の最終年度であり、事業ポートフォリオの変革と経営基盤の強化を進めております。これにより、「基盤構築」を完遂し、2023年4月にスタートさせる新たな中期経営計画における「成果獲得」のステージにつなげ、グループ全体でさらなる企業価値向上に努めてまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

2022年12月



代表取締役社長 麿 秀晴

サステナブルパッケージとグローバル展開の加速

SX
サステナブル
トランスフォーメーション

「SX(サステナブルトランスフォーメーション)」は、「DX(デジタルトランスフォーメーション)」と並ぶトッパンの中長期戦略の柱です。特に生活・産業事業分野において、「サステナブルパッケージ」を切り口に、グローバルでのさらなる事業拡大に取り組んでいます。本特集では、トッパンの「SX」を牽引するサステナブルパッケージ戦略とグローバル展開の加速について、その概要をお伝えします。

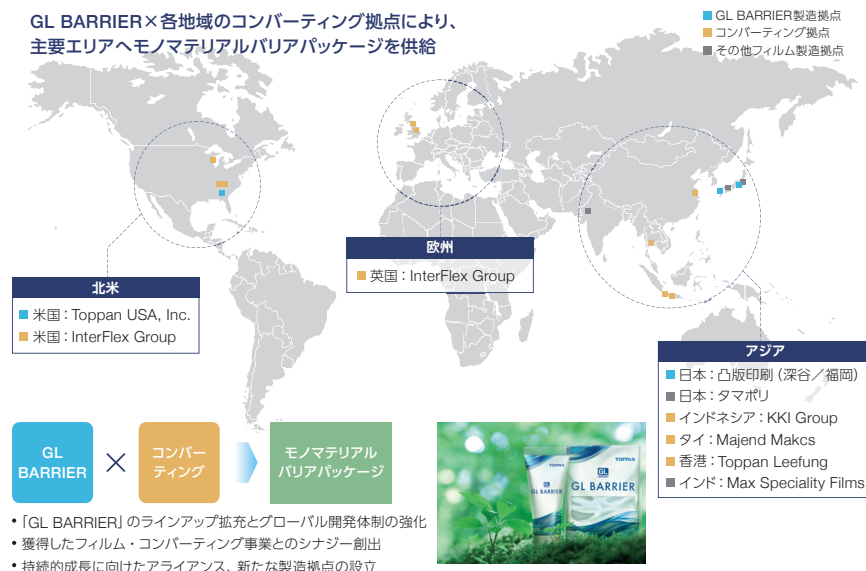
サステナブルパッケージを核としたグローバル展開

パッケージ事業は、かねてより「脱炭素」「資源循環(リサイクル)」「脱プラスチック」といった社会的要請に応え、環境視点に基づくさまざまなソリューションを開発・提供してきました。これらは持続可能な社会の実現に向けたアクションであると同時に、トッパンの競争力の源となり、ビジネスの高付加価値化に貢献してきました。

こうした中、特に近年、世界的な環境ニーズの高まりを受け、欧米のパッケージ市場において新たな潮流が生まれています。リサイクル適性が厳しく吟味され、パッケージの「モノマテリアル化(単一素材化)」の必要性が叫ばれるようになったのです。こうした状況は、環境適性に優れ、かつ透明蒸着バリアフィルムで世界トップシェアを誇る「GL BARRIER」を擁し、またM&Aによる海外コンバーティング事業への本格参入でサステナブルパッケージのグローバル展開を加速しているトッパンにとっては格好のビジネスチャンスとなっています。獲得した海外拠点と「GL BARRIER」を活用し、パッケージのモノマテリアル化、いわゆるモノマテリアルバリアパッケージをグローバルで供給できる体制を構築することで、さらなる事業拡大を図っています。

パッケージ事業における海外拠点の拡大と戦略

GL BARRIER×各地域のコンバーティング拠点により、
主要エリアへモノマテリアルバリアパッケージを供給



■ グローバル展開の核となる「GL BARRIER」とモノマテリアルバリアパッケージ

■ トッパンの戦略商品「GL BARRIER」

「GL BARRIER」は、1986年にトッパンが独自開発した環境適性の高い透明蒸着バリアフィルムです。近年、ビン・缶などから各種フィルムでできたパッケージ（軟包材）への移行が世界的に進んでおり、その際、内容物保護や長期保存などの観点から高い酸素・水蒸気バリア性能が必要となります。最もバリア性に優れているのはアルミ箔ですが、電子レンジの使用不可、パッケージとして別途印刷基材フィルムが必要であることから、CO₂排出量が多くなるなど、環境適性にも難点がありました。

こうした課題の解決に最もよく適合するのが、トッパンの透明バリアフィルム「GL BARRIER」です。アルミ箔に匹敵する世界最高水準のバリア性能とともに、アルミ箔では難しかった機能性、環境適性の改善を実現しました。特に欧米でパッケージを製造する大手コンバーターでの採用が拡大した2010年頃から急激に出荷量が増加し、用途に応じてラインアップの拡充も図り、いまや透明蒸着バリア市場において世界トップシェア製品にまで成長しました。現在はM&Aで獲得した海外のコンバーティング拠点とのシナジーを活かし、この「GL BARRIER」を活用したサステナブルパッケージの現地生産・供給を実現し、グローバルでの事業拡大に取り組んでいます。



透明バリアフィルム「GL BARRIER」

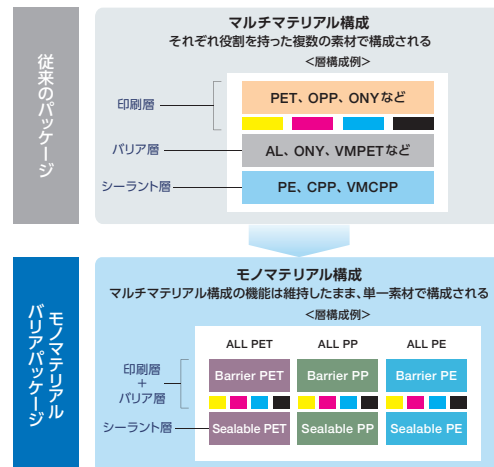
■ 世界的な環境ニーズに応える「モノマテリアルバリアパッケージ」

「GL BARRIER」を活用したサステナブルパッケージの中でも、グローバル展開において鍵を握るのが、モノマテリアルバリアパッケージです。「GL BARRIER」を活用し、リサイクルしやすい単一素材（モノマテリアル）のパッケージを実現し、欧州を中心としたグローバルニーズに応えます。

＜パッケージのモノマテリアル化とは＞

食品・トイレタリー製品などのパッケージ（軟包材）は、バリア性や強度などの面でそれぞれ固有の役割を持つ複数のフィルムで構成されています。各層に機能・コスト面で最適な素材を選定し、パッケージとして提供するものが、従来の「マルチマテリアル」の考え方でした。しかし、この複合素材によるパッケージは、リサイクルの際に「素材ごとの分別」が困難なことから、環境意識の高い欧州を中心に弊害が指摘されています。また、バリア性能では最も優れたアルミ箔の使用が、リサイクルを一段と難しくしています。こうした中、アルミ箔も使用せず、優れたバリア性能を担保しながら、リサイクルしやすいよう単一素材で構成する、いわゆるパッケージの「モノマテリアル化」が喫緊の課題です。トッパンの「GL BARRIER」は、PETやオレフィンなどの基材に独自開発の蒸着・コーティング層を組み合わせています。そして、強度などの機能性を担保する層にも同一素材を組み合わせることで、バリア性能と単一素材でリサイクルしやすい「モノマテリアルバリアパッケージ」の開発を実現しラインアップを拡充しています。

パッケージのモノマテリアル化



2022 4 → 9月

4月 1日 半導体原版メーカーを会社分割により設立 [1](#)

4月 7日 「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」の構成銘柄に選定 **ESG**

4月 15日 タイのパッケージメーカーを買収

4月 19日 令和4年度「知財功労賞 特許庁長官表彰」を受賞

4月 25日 製薬会社向け電子カルテデータ分析ツールを開発

4月 27日 レンジ調理後そのまま食べられる新型包材を開発

5月 16日 長距離輸送中の温度管理を実現する無線通信ラベルを開発

5月 25日 処方せん薬をファミリーマートの店舗で受け取れるサービスを開始

6月 6日 「チューブなパウチ®」が日本包装技術協会主催「木下賞」を受賞 [2](#) **ESG**

6月 8日 「デジタルトランスフォーメーション銘柄（DX銘柄）2022」に選定 [3](#)

6月 16日 凸版印刷とブルックマンテクノロジー、
世界初最長30mの距離を測定できる次世代ToFセンサを開発



1



2



DX銘柄2022
Digital Transformation

3

2022年4月15日発表

タイのパッケージメーカーを買収

当社は、タイで軟包装の製造販売を行うMajend Makcs Co.,Ltd.（本社：タイ・アユタヤ、以下 Majend Makcs社）の株式譲渡契約を2022年3月31日に締結。2022年5月までに、連結子会社化します。本買収により、タイにおける主に欧米およびASEANエリア向けへ製造される軟包装の現地生産が可能になります。

タイは食品や消費財などのグローバルブランド企業における欧米・ASEANエリア向けの主要生産地であり、当社は今回の買収により、保有するサステナブル包材をこの有力な市場で生産・提供ができるようになります。これにより、各種バリアフィルムなど包装材料の製造から最終製品までを世界中でワンストップに提供できる、グローバルパッケージメーカーとなることをめざします。



Majend Makcs社

ESG 環境 (Environment)、社会 (Social)、ガバナンス (Governance) 関連の取り組み

- 6月 23日** 「GL BARRIER」モノマテリアル包材が
欧州のリサイクル性評価機関で最高クラス評価 **4** ESG
- 6月 29日** ライトを当てると文字や絵が現れるホログラムを開発
- 7月 1日** 米国にCVCファンドおよび投資管理子会社を設立
- 7月 26日** 「METAVERSE EXPO JAPAN 2022」に出展 **5**
- 7月 29日** FTSE RussellやMSCIなどが提供する
世界的ESG投資インデックスの構成銘柄に継続選定 ESG
- 8月 9日** 2021年度バリアパッケージで81,000トンのCO₂排出量削減 ESG
- 8月 25日** プラスチックパッケージの店頭回収実証実験を開始 ESG
- 9月 2日** オーストラリアの食品展示会「Fine Food Australia 2022」に初出展 **6**
- 9月 5日** 新たな「温室効果ガス排出削減目標」が
国際的なイニシアチブSBTの認定を取得 ESG



4



5



6

2022年6月16日発表

凸版印刷とブルックマンテクノロジー、世界初^(※1) 最長30mの距離を測定できる次世代ToFセンサを開発

当社は、子会社の株式会社ブルックマンテクノロジー(本社:静岡県浜松市)と共同で、1～30mの範囲で距離を測定できる「ハイブリッド駆動ToF(Time of Flight)方式」^(※2)を用いた「三次元距離画像センサ(以下 3Dセンサ)」を開発しました。これにより、従来主流の「間接ToF方式」の3Dセンサの5倍以上遠くまでの範囲で距離の計測が可能となりました。また、屋外でも20mまでの計測が可能です。センサを搭載することで障害物を回避するなどの動きをする自律飛行ドローンや自律走行型搬送ロボットなどの新たな「眼」として、操作性と安全性の向上に寄与します。

当社は、この新しいToF方式による距離センサを搭載したカメラの開発も進めており、評価用モデルの提供を2022年12月に開始し、2023年秋の販売開始を計画しています。

※1: アバランシェフォトダイオードを用いない、従来のCMOSイメージセンサ型の画素構造を用いたToFセンサとして、先行技術論文および先行製品のカタログ調査に基づく当社調べ(2022年6月)。

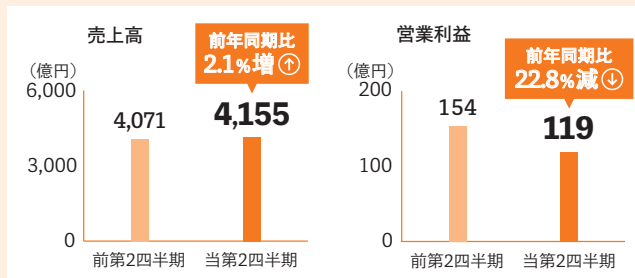
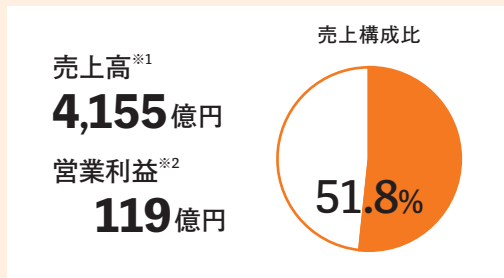
※2: 「ハイブリッド駆動ToF方式」とは、静岡大学・川人祥二教授により提唱された新しいセンシング技術。従来の「間接ToF方式」と比較して、屋外でのセンシング時に問題となる外光ノイズの影響を受けにくいという特長がある。



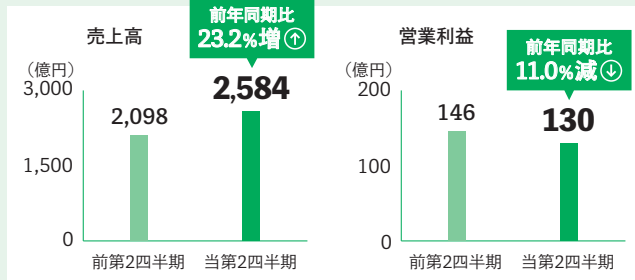
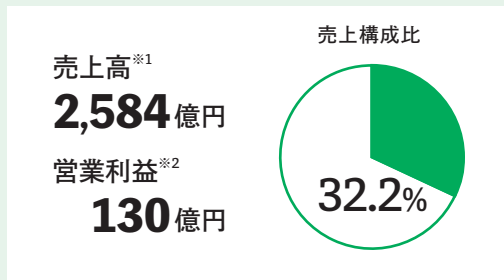
新方式によるToFセンサカメラの試作機

セグメント別概況

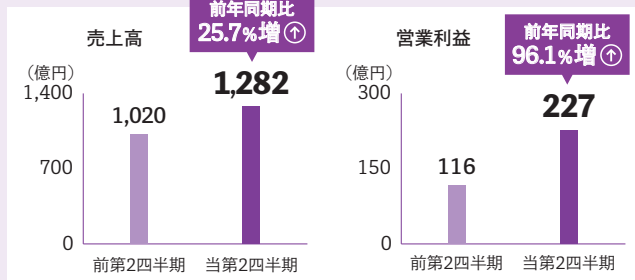
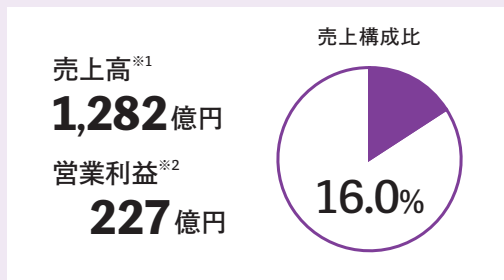
■ 情報コミュニケーション事業分野



■ 生活・産業事業分野



■ エレクトロニクス事業分野



※1 外部顧客への売上高 ※2 全社費用調整前の数値で計算しています。

セキュア関連は、ICカード関連が増加したことなどにより、前年を上回りました。コンテンツ・マーケティング関連では、ペーパーメディアやSP関連が減少したものの、ゲームカードや株式会社BookLiveによる電子書籍関連事業、Web広告運用などのデジタルマーケティング関連の増加により、前年並みを確保しました。BPO関連は、デジタルとオペレーションを組み合わせたハイブリッドBPOの提供により、企業や自治体における業務効率改善を推進しました。以上の結果、情報コミュニケーション事業分野全体では、前年同期比で増収減益となりました。



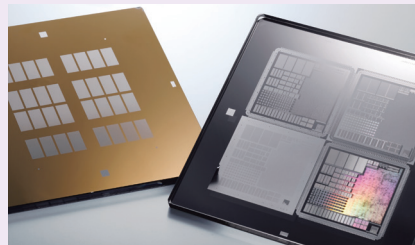
BPO

パッケージ関連は、国内は原燃料価格高騰の影響を受けたものの、食品向けやサステナブル包材の拡大により前年を上回りました。海外は買収した米国及びタイの軟包装メーカーに加え、インドネシアを中心に販売が拡大し、好調に推移しました。建装材関連は、国内は高意匠・高機能化粧シートの販売が拡大し、前年を上回りました。海外は欧州でのインフレによる需要減の影響があるものの、インテリア向け化粧シートの販売増及び価格改定により前年並みとなりました。以上の結果、生活・産業事業分野全体では、前年同期比で増収減益となりました。



米国の軟包装子会社「InterFlex Group」

半導体関連では、フォトマスクは、堅調な半導体需要を背景に増収となりました。FC-BGA基板は、データセンターやサーバー向けなど、大型・高多層の高付加価値品を中心に好調に推移しました。ディスプレイ関連では、テレビ向けなどの需要が減少した反射防止フィルム及び構造改革を進めたカラーフィルタが前年を下回りましたが、産業機器向けのTFT液晶パネルが堅調に推移し、全体では前年並みを確保しました。以上の結果、エレクトロニクス事業分野全体では、前年同期比で増収増益となりました。



フォトマスク

株式情報

2022年9月30日現在

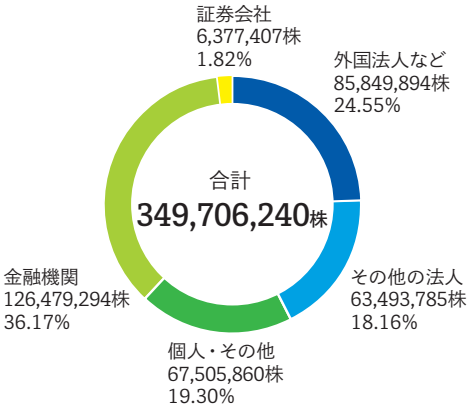
発行済株式数 349,706,240株
株主数 36,530名

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	53,289	16.16
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	17,652	5.35
日本生命保険相互会社	15,002	4.55
東洋インキSCホールディングス株式会社	9,492	2.88
第一生命保険株式会社	9,154	2.78
従業員持株会	6,881	2.09
株式会社講談社	6,710	2.04
凸版印刷取引先持株会	5,971	1.81
ステート ストリート バンク ウェスト クライアント トリーティー 505234	4,529	1.37
エスエスピーティーシー クライアント オムニバス アカUNT	3,978	1.21

※自己株式は、上記大株主から除外しています。
※持株比率は、発行済株式の総数から自己株式数を控除して計算しています。

株式分布状況(所有者別)



※自己株式19,981千株は、「個人・その他」に含まれています。

株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日
定時株主総会 毎年6月
株主確定基準日 定時株主総会・期末配当 3月31日
中間配当を行う場合 9月30日
その他必要ある場合は、あらかじめ公告いたします。
株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
・お問い合わせ先 TEL 0120-232-711(フリーダイヤル)
・郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号

1単元の株式の数 100株
公告の方法 電子公告により、当社ウェブサイト
(<https://www.toppan.co.jp/>)に掲載
いたします。
なお、やむを得ない事由により電子公告
によることができない場合は、官報に掲載
いたします。
上場金融商品取引所 東京証券取引所(プライム市場)
証券コード 7911

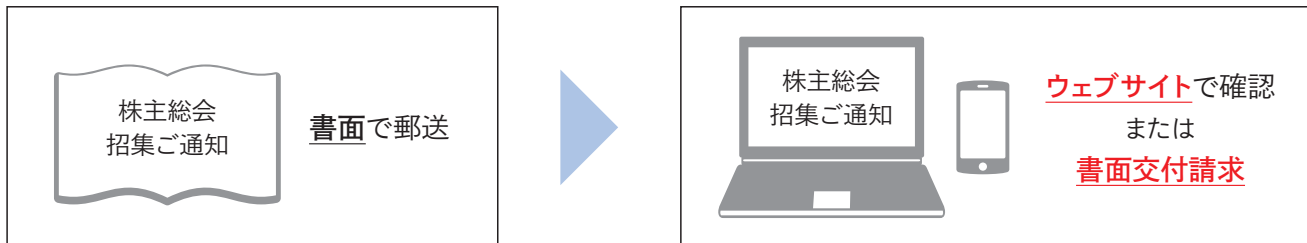
〈株式に関するお手続きのご案内〉

お手続き・ご照会の内容	対 象	お問い合わせ
ご住所・お名前などの変更 単元未満株式の買取・買増請求 配当金の受取方法・振込先のご変更 マイナンバーに関するお届出・お問い合わせ	証券会社に口座を開設されている株主さま	口座を開設されている証券会社
	証券会社に口座を開設されていない株主さま(特別口座)	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 0120-232-711(フリーダイヤル)
郵送物の発送などに関するご照会 支払期間経過後の配当金に関するご照会 株式事務に関する一般的なお問い合わせ	すべての株主さま	

お知らせ

《株主総会資料の電子提供制度に関するご案内》

2023年3月以降の株主総会より、これまで書面で郵送していた株主総会資料が原則ウェブ化されます。



引き続き株主総会資料を書面で受領されたい株主さまは、「書面交付請求」のお手続きが必要となります。
詳細は、ご利用の証券会社または以下のお問い合わせ先にお問い合わせください。

電子提供制度に関する
お問い合わせ先

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
0120-696-505 (電子提供制度専用ダイヤル)
受付時間 9:00~17:00 (土・日・祝日を除く)
<https://www.tr.mufg.jp/daikou/denshi.html>



Information

▶ 印刷博物館からのお知らせ

予告 1階P&Pギャラリー企画展 「世界のブックデザイン2021-22」

2022年6月に発表された「世界で最も美しい本2022コンクール」の受賞図書をはじめ、世界最高峰のブックデザインと造本技術を紹介します。

会 期 12月10日(土)~2023年4月9日(日)

開館時間 10:00~18:00

休 館 日 毎週月曜日(ただし1月9日は開館)、1月10日(火)

※新型コロナウイルス感染拡大防止のための措置として、本に触れる際は入口で配布する使い捨て手袋を着用いただけます。



We All Play:
Kimetawānaw

地下1階
展示室

- 企画展「地図と印刷」 ~12月11日(日)
- 常設展 12月21日(水)~
展示替え期間中(12月13日~20日)は部分展示、入場無料

印刷博物館ウェブサイトURL <https://www.printing-museum.org>

画像: 受賞作(カナダ) Julie Flett, *We All Play: Kimetawānaw*, Greystone Kids, Vancouver

▶ 株主優待カレンダーについて

当社では、2022年3月末時点で5単元株(500株)以上をお持ちの方で、お申し込みをされた株主の皆さまへ、株主優待カレンダーを進呈しています。今回は「現代の芸術 日本絵画—福田平八郎」と題し、鋭い観察眼をもとに、対象の持つ美しさを抽出した表現が特徴的な福田平八郎の作品をお楽しみいただけるカレンダーを12月上旬頃にお届けする予定です。なお、万一、12月中旬を過ぎても届かない場合は、下記の電話番号までお問い合わせください。

電話番号 0120-108-194

受付期間 2023年1月20日(金)まで

受付時間 9:00~17:30 (月~金曜日)

※土・日・祝日および年末年始(12/29~1/3)は除く。
※メールでのお問い合わせは受け付けておりません。



2023年版株主優待カレンダー
(デザインは変更になる場合があります。)

表紙について

オリジナル高品質4K映像コンテンツ「Meet Japan!」より

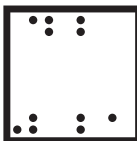
柔らかな朝日に染まる駿河湾

自社の映像クリエイターが撮影した日本各地の美しい風景等のオリジナル高品質4K映像コンテンツ「Meet Japan!」より、
今号の表紙は静岡県^{さったとうげ}の薩埵峠から見下ろした駿河湾です。



表紙の映像を
ぜひ「AReader」でご覧ください。

スマートフォンなどを使って、「App Store」「Google Playストア」でアプリ「AReader」を検索し、ダウンロード（無料）。「AReader」を起動し、右記のARマーカールにかざすと表紙に関連する映像がご覧いただけます。



※本画像は、高品質4K映像（Printeractive 4K）から切り出したものです。



Meet Japan!

凸版印刷株式会社

<https://www.toppan.co.jp/>

